

## 学業特化型学習データベース：運用マニュアル

このマニュアルでは、Antigravity上の「Study\_Base」を使いこなし、学業（講義・リサーチ・執筆）を圧倒的に効率化する方法を解説します。

### 1. セットアップ：エージェントの「脳」を作る

最初に `00_System` フォルダを完成させます。これにより、エージェントはあなたの専門性や文章の好みを完全に理解します。

- `profile.md` を更新: 学年、専攻、関心のあるテーマ（経済史、社会思想など）を記述します。
- `agent_instructions.md` を定義: 「簡潔に」「批判的に」「だ・である調で」といった振る舞いを固定します。

### 2. 日常の学習サイクル（3ステップ）

#### Step 1: インプット（01\_Active\_Courses）

新しい科目やテーマに着手する際、該当フォルダに資料を集めます。

- 収集: PDF、Web記事のテキスト、講義メモを `materials/` や `notes/` に保存。
- エージェント活用: - 「この資料の要点を3つ、`notes/` に要約して保存して」
  - 「この論文の論理構成を分析して、不足している視点がないか教えて」

#### Step 2: 知識の連結（02\_Knowledge\_Base）

個別の科目を越えた「知のネットワーク」を作ります。

- 資産化: 特定の思想家や理論など、他科目でも使えそうな内容は `02_Knowledge_Base/Theory` などへ移動またはコピー。
- エージェント活用:
  - 「いま学んでいる『日本経済史』の事象を、『フランス社会思想』の観点から解釈できるか提案して」
  - 「この用語は、以前学んだ〇〇の概念とどう違う？」

#### Step 3: アウトプット（03\_Drafting\_Lab）

レポートの執筆フェーズです。

- 構成案の作成: `notes/` をスキャンさせ、Artifacts機能でアウトラインを生成。
- 執筆と添削: 草稿を `current_work/` に置き、エージェントと推敲。
- エージェント活用:
  - 「`style_guide.md` に基づいて、この草稿の表現を学術的なトーンに修正して」
  - 「論理が飛躍している箇所に『要検討』とマークして」

### 3. エージェントへの具体的コマンド例

Antigravityのチャット欄で以下のフレーズを使うと、システムが効率的に動きます。

| コマンド | 期待される動作 || 「リサーチモード：

テーマ

」 | resource\_index.md の情報源に基づき、信頼性の高いソースを探し、要約を生成する。 || 「ロジックチェック」 | 現在開いている執筆ファイルの論理的な矛盾や、根拠が薄い箇所を指摘させる。 || 「概念接続」 | 新しい知識と、 02\_Knowledge\_Base 内の既存知識との関連性を考察させる。 || 「スタイル統一」 | style\_guide.md に従い、文章の語尾、引用形式、禁則語を自動修正させる。 |

### 4. 知識を資産に変えるコツ（Archiveの運用）

科目が終了し、単位を修得した後は 99\_Archive へ移動させますが、単に捨てるのではありません。

- **振り返り:** 「この科目で得た最大の知見を1つのファイルにまとめて 02\_Knowledge\_Base に置いて」とエージェントに指示。
- **検索性の維持:** Antigravityはフォルダ横断検索が得意なため、アーカイブした過去のレポートも「以前のレポートで使ったあの論理構成を再利用したい」といった時にエージェントが掘り起こしてくれます。

### 5. 禁止事項と注意点

1. **AIの丸写しをしない:** エージェントはあくまで「提案」です。自分の言葉で再構成し、03\_Drafting\_Lab で自分の思考を必ず介在させてください。
2. **フォルダ構造を守る:** エージェントは「どこに何があるか」をフォルダ名で判断します。ルールを崩さないことが、AIの精度を維持するコツです。